

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター



環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2018年 冬期概要

2018年冬期の結果の概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2018年度冬期（2018/12-2019/2）の概要をお知らせします。

個体数は前年より減少

2018年度冬期調査は、2018年12月1日から2019年2月28日までの期間に実施されました。111ヶ所の調査サイトで調査が実施され、このうち一斉調査（2018年1月13日を基準日とした前後1週間の調査）への参加は90ヶ所でした。一斉調査期間では、シギ・チドリ類 35種25,330羽、ツクシガモ3,570羽、ヘラサギ18羽、クロツラヘラサギ200羽、ズグロカモメ2,025羽が記録され、冬期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類 40種44,376羽、ツクシガモ5,033羽、ヘラサギ43羽、クロツラヘラサギ425羽、ズ

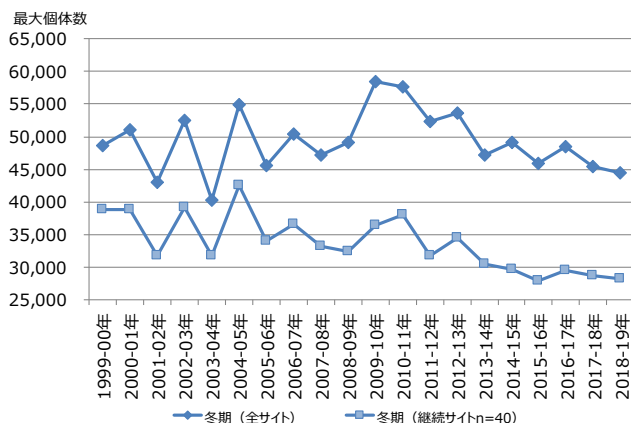


図1. 冬期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移 (1999年から2018年の継続サイトN=41)

表1. 2018年冬期調査の優占種

ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	28,749	64.9%
シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	4,290	9.7%
ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	3,344	7.5%
タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	1,515	3.4%
ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>	1,488	3.4%
ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	1,049	2.4%
ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	795	1.8%
メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	633	1.4%
アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	450	1.0%
ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>	318	0.7%
その他	The others	1,690	3.8%
全種合計		Total No. of individuals of all species	44,321 100.0%

グロカモメ3,517羽が記録されました。

1999年冬期以降の「全サイトの最大個体数の合計」と「調査が継続されているサイトのみの最大個体数の合計」を、グラフに示しました（図1）。全サイトの最大個体数の合計は、前年度冬期と比べ1,031羽減少（-2.3%）し、継続サイトでは前年度冬期と比べ477羽減少（-1.7%）して、28,209羽となりました。全サイト、継続サイト共に2010年冬期頃から増減をしつつも減少傾向にあり、ここ2年は連続して減少しています。

最大個体数における優占種の上位種は、ハマシギ（64.9%）、シロチドリ（9.7%）、ダイゼン（7.5%）、タゲリ（3.4%）、ミユビシギ（3.4%）、ムナグロ（2.4%）で、前年度順位からタゲリがミユビシギと同率で4位となりました（表1）。タゲリ（写真1）は2年連続で順位を上げており、前年の最大個体数より28%ほど増加しました。一方ミユビシギは前年の最大個体数より約22%減少しています。



写真1. タゲリ

チドリ類が前年より増加？

シロチドリ、タゲリ、ムナグロ、メダイチドリ、ダイゼンなどのチドリ類が前年度に比べて、最大個体数が増加しています。それぞれ長期的にみるとトレンドも異なりますし、生息環境も異なるのですが興味深い傾向です。特にムナグロとメダイチドリ(写真2)は昨年度急減していました。気象庁のまとめでは、2018-2019年冬の東日本・西日本は、平年よりかなりの高温で、特に沖縄・奄美は記録的な暖冬となっており、気温の高さが越冬期の環境を良好にしたことが考えられます。



写真2. メダイチドリ

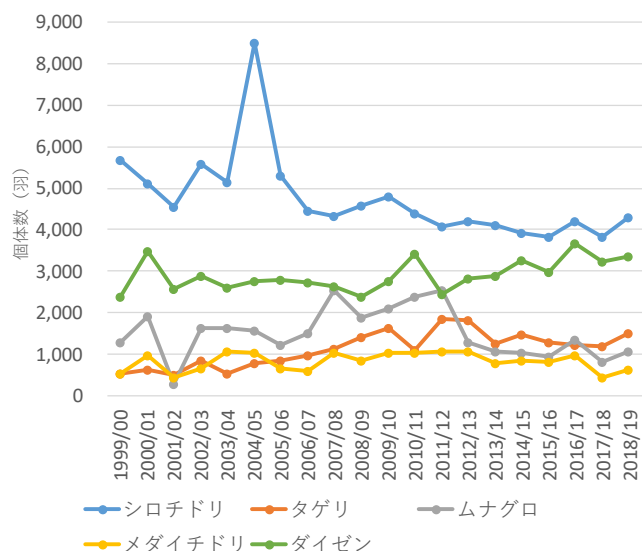


図2. シロチドリ、タゲリ、ムナグロ、メダイチドリ、ダイゼンの最大個体数の経年変化

干潟の特定4種

干潟が主な生息環境であるツクシガモ、ズグロカモメ、ヘラサギ、クロツラヘラサギについては、重複を避けるため一斉調査(2019/1/13)時のデータを分析しています。ツクシガモは2年連続増加し、ヘラサギも増加していました。ズグロカモ

メ、クロツラヘラサギは減少していました。クロツラヘラサギ(写真3)は、調査開始時から順調に越冬数が伸びていましたが、



写真3. クロツラヘラサギ

2014年冬期付近から個体数があまり増加していません(図3)。より多くの調査地点を調査している世界一斉個体数調査(日本クロツラヘラサギネットワーク・日本野鳥の会)では、2019年冬期(2019/1/25-27)に日本で538羽が記録されており、年々個体数が増加しています。トレンドを見るためには網羅的な調査も参考にする必要があると考えられます。また、モニタリングサイト1000では主に冬期に観察される種でしたが、越夏個体も徐々に増加しており、秋期の経年変化も注意していききたいと考えています。

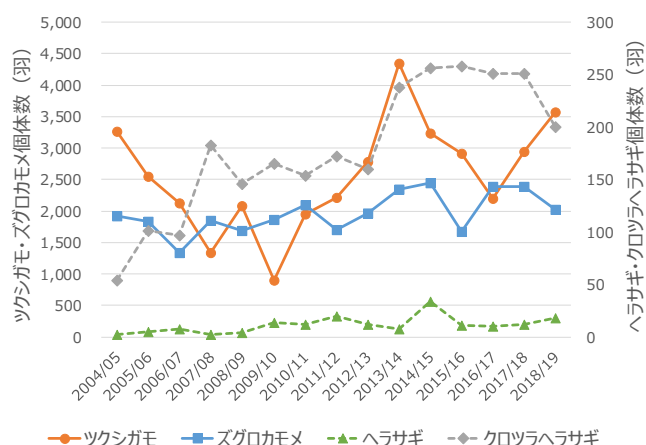


図3. ツクシガモ、ズグロカモメ、ヘラサギ、クロツラヘラサギの経年変化 一斉調査データを使用。ツクシガモ、ズグロカモメは左軸、ヘラサギ、クロツラヘラサギは右軸。

○参考資料

過去の気象データ検索(気象庁)

<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

2019年クロツラヘラサギ世界一斉個体数調査の結果(日本野鳥の会)

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/bfs-pj/bfs-census2019/>

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:ハマシギ(守屋年史)

2018年 冬期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター <http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ <http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史 電話/Fax: 042-401-8661 メール: shigichi@bird-research.jp